

道内の国管理4空港を同一の会社へ民間委託

釧路空港の民間委託は、国から道内の国管理4空港（新千歳・稚内・釧路・函館）を中心に複数空港の一括民間委託（以下、バンドリング）をする方向性が示されています。これは広大な面積を有する北海道の特性からバンドリングをすることによるメリットが大きいためです。例えば、複数空港を一体

的にセールスできること、また新千歳空港に路線が集中し、余裕のない現在の状況を他空港の利活用を図り改善していくなど、北海道全体の空港機能を生かすことが可能になることなどが挙げられます。



〈道内国管理4空港の概要（平成27（2015）年実績）〉

国管理空港名	新千歳空港	稚内空港	釧路空港	函館空港
乗降客数（人）	20,461,531	184,799	685,379	1,772,052
国内線（人）	18,348,794	184,799	680,459	1,567,196
国際線（人）	2,112,737	0	4,920	204,856
1日当たり就航便数（便/日）（※）	385.3	7.5	27.3	49.3
滑走路	3,000m×2本	2,200m×1本	2,500m×1本	3,000m×1本

（※）1日当たり就航便数は、1年間の着陸回数を2倍（着陸と離陸が同数と仮定）した数値を365日で割って算出。
（出所）国土交通省「暦年・年度別空港管理状況調査」

釧路空港を民間委託するまでの流れ

※下記の作業は全て国において実施



※スケジュールはあくまで想定です

地元の意見・要望

現在は、釧路市から国や北海道に対して、新運営会社に期待していることや国への要望を伝えています。

民間委託して新運営会社が管理・運営を開始するのは平成32（2020）年度の予定です。現在は、国は地元の意見・要望等を受けて、基本スキーム（※）の内容等を検討しています。

※基本スキーム：委託業務内容や応募条件等が記載されているもの。

釧路市が考える「釧路空港の将来像」 （釧路市から国・北海道に伝えていること）

釧路空港の目指す姿

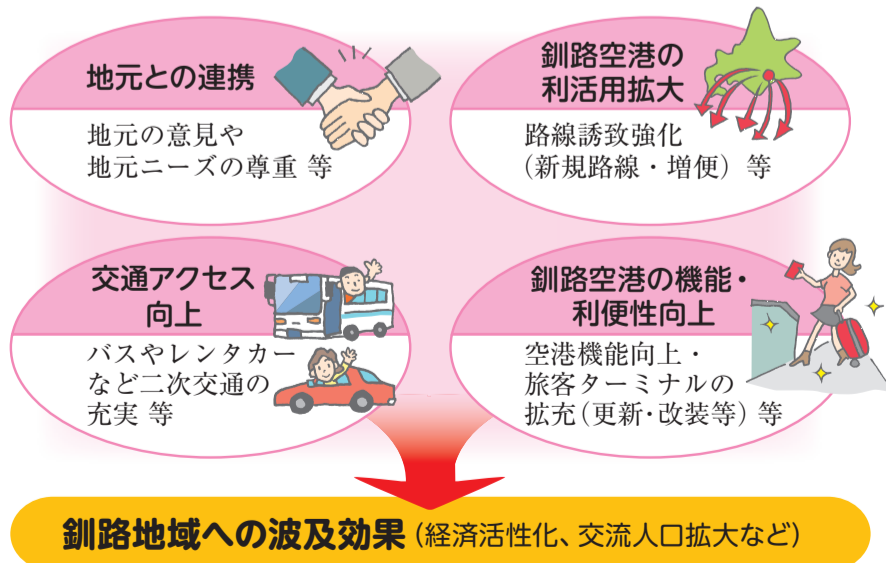
- ・世界に通用する観光地の玄関口としての役割
- ・ひがし北海道の拠点空港としての機能強化

2050年までの将来目標

釧路空港乗降客数「200万人」
釧路空港取扱貨物量「2万トン」

これらを達成するため、民間委託する上で市から国・北海道に伝えている主な内容は以下のとおりです。

市としては、釧路空港が活性化されるだけでなく、釧路地域全体にその効果が波及されることが重要と考えています。



空港民間委託 Q&A



Q 国鉄民営化と違うの？

A 国鉄民営化とは違います。国鉄民営化は資産等も含めて全て民間等に引き継ぎましたが、空港民間委託は、国の施設は国が所有し続け、国の責任において契約期間中の運営を民間に任せることになります。

Q 民間に任せて安全面は大丈夫？

A 航空機や空港の安全に直接関わる管制業務等は、引き続き国で実施します。また、契約時において、新運営会社は国で運営していた時と同水準の安全基準の遵守が義務付けられており、遵守状況は国が監督します。

Q 既に民間委託している空港はあるの？

A 平成28年7月に国管理空港の宮城県・仙台空港が民間委託されました。また現在、香川県の高松空港、福岡県の福岡空港が民間委託に向けた作業を進めています。

